

15 国宝・重文 室生寺金堂ほか2棟 建造物保存修理事業



平安前期に建立された国宝 金堂及び五重塔、室町時代の重要文化財 御影堂の保存修理事業を進めています。令和8年度は国宝 五重塔及び金堂の屋根葺替を中心とした修理工事を実施予定です。

事業期間 R7～R10年度
R8年寄附目標額 4,908万円

17 国宝・重文 法隆寺金堂ほか54棟 建造物防災施設等事業



法隆寺は、現存する世界最古の木造建築群であり、約1400年前の飛鳥時代の姿を今に伝えています。現在、国宝・重要文化財 法隆寺金堂ほか54棟の保存環境を改善するために、13年にわたり、防災施設の全面的な改修事業を実施しています。

事業期間 R6～R18年度
R8年寄附目標額 5,000万円

19 重文 當麻寺木造阿弥陀如来坐像 美術工芸品保存修理事業



平安時代後期の丈六像です。像本体は修理工房に移送し、漆箔層の剥落止めや構造補強等の処置を進めています。令和8年度末には堂内に再搬入し、現地修理を行った台座・光背とともに組み上げて完成予定です。

事業期間 R7～R8年度
R8年寄附目標額 214万円

21 念仏院絹本着色千手観音二十八部衆像 美術工芸品公開修復事業



千手観音の周囲に二十八部宗と風神・雷神が描かれています。端正な姿の千手観音像に対し眷属像はやや寸詰まりで、鎌倉時代(14世紀)の作品と考えられます。横折れを修正するほか、過去の修理で暗く見にくくなった画面を見やすくします。

事業期間 R8年度
R8年寄附目標額 76万円

23 重文 春日大社神事日記 美術工芸品保存修理事業



春日大社の神事を中心に、各時代の社会・経済などを、鎌倉時代から明治時代までの長期間にわたって知ることができる史料です。全512点のうち、15点について、クリーニングや欠失部分の補修を進めています。

事業期間 R7～R9年度
R8年寄附目標額 365万円

25 圓光寺木造僧形坐像(伝乗尊像) 美術工芸品公開修復事業



本願寺第3世覚如の高弟であった乗尊(1295～1357?)の像として伝わる肖像彫刻です。針葉樹材の寄木造りで、頭部・体部とも箱状に組む構造から室町時代の作と推定されます。今回の修理では、主に落ち込んだ頭部や緩んだ部材の修正を行います。

事業期間 R8～R9年度
R8年寄附目標額 101万円

27 往馬坐伊古麻都比古神社絹本着色生駒曼荼羅 美術工芸品公開修復事業



往馬大社の景観を俯瞰的に描いた宮曼荼羅です。南都絵所吐田座の重有の作と推定され、室町絵画として注目されます。全体に横折れが入り彩色の剥落が懸念されるため、これ以上損傷が進む前に修理を行います。

事業期間 R8～R9年度
R8年寄附目標額 52万円

16 国宝 興福寺五重塔 建造物保存修理事業



現在、明治時代以来120年ぶりとなる、大規模な保存修理事業を実施しています。約6万点の瓦を丁寧に屋根から降ろし、再用できる瓦と傷んだ瓦を1点1点調査しています。その後は、破損が生じている大斗の修理を行う計画です。

事業期間 R4～R15年度
R8年寄附目標額 1億2,100万円

18 石上神宮太刀 美術工芸品保存修理事業



「義憲作」の銘がある太刀。義憲は平安時代後期の備前の刀工で、その作品は伊勢神宮に伝来する太刀と本品の2例しか知られていません。今回の修理では刀身の錆を取り除くほか、新たに鍔と白鞘を製作して保存に万全を期します。

事業期間 R8年度
R8年寄附目標額 57万円

20 重文 丹生川上神社木造神像 美術工芸品保存修理事業



平安～鎌倉時代に造られた木造神像が20体まとまって伝存しています。中央殿安置の11体の保存修理が完了し、現在は東西殿に祀られる9体の保存修理を進めています。経年の汚れやカビの除去、虫蝕に対する処置、朽損箇所の材質強化を行う計画です。

事業期間 R7～R8年度
R8年寄附目標額 247万円

22 来迎寺木造阿弥陀如来坐像 美術工芸品公開修復事業



平安後期の穏やかな作風を示す阿弥陀如来像です。全体に漆箔の剥落が進むほか、台座が鼠により傷つけられていました。今回は表面全体の剥落止めのほか、台座の解体修理を行います。

事業期間 R7～R8年度
R8年寄附目標額 27万円

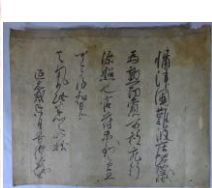
24 柳澤家当主年録及び日記類 美術工芸品公開修復事業



大和の大名として知られる郡山藩・柳澤家の歴史を伝える古記録です。現在、全1800冊のうち、特に損傷の激しい10冊の修理を実施しています。虫損部分を補修し、脆弱な部分を補強します。

事業期間 R8～R9年度
R8年寄附目標額 127万円

26 広橋家文書 美術工芸品公開修復事業



中世以来の由緒を持つ旧家に伝来した、後醍醐天皇等の論旨を含む古文書です。歴史研究において高い注目を集めてきましたが、状態の悪さから公開の機会に恵まれてきませんでした。現在、虫損や糊剥がれ等の修繕により、美観の回復を進めています。

事業期間 R8～R9年度
R8年寄附目標額 16万円

28 法楽寺木造四天王立像 美術工芸品公開修復事業



広葉樹による一木造りの像ですが、構造・作風とも二手に分かれます。割刳ぎ造りの2体は12世紀の作風を示し、内刳りのない2体は更に時代が遡ると考えられます。過去の修理で形状が不適合となった箇所の修正を行うと共に、不安定な構造を修正します。

事業期間 R8～R11年度
R8年寄附目標額 147万円



大和神社の氏子域である旧大和郷9町による祭りで、4月1日の御旅所へのお渡りがあります。祭り継続には、用具の修理・新調が必要です。令和8年度は破損した楽太鼓の新調を予定しています。

事業期間 R8年度
R8年寄附目標額 36万円

県指定



8世紀に遡る我が国最古の磨崖仏の一つです。巨大な岩の平坦面に如来像や菩薩像が高さ2m余、幅3m余にわたって彫られています。磨崖仏を保護する木造の覆屋は建設から40年が経ち、土台などに腐朽が見られるため、この覆屋の修理を行います。

事業期間 R8年度
R8年寄附目標額 74万円

県指定



奈良時代の総国分尼寺として創建された尼寺です。江戸時代には皇女が入寺し、京都御所からの客殿の移築と庭園の整備により、尼門跡の格式と優しさを示した御所的な雰囲気を感じさせます。

現在、庭園の復旧修理を図るため、建物や塀の修理、植栽の整備を行っています。

事業期間 R1～R10年度
R8年寄附目標額 684万円

国指定



中将姫が二十五菩薩に導かれ極楽浄土へ向かう伝説を再現した、1000年以上の歴史を持つ伝統的な野外劇です。

全28装束のうち、過去24領の復元新調を行いました。残る4領等を新調する予定です。

事業期間 R7～R11年度
R8年寄附目標額 51万円

国指定



東大寺や奈良公園に隣接しながらも周りから隔絶された静かな日本庭園です。南大門や若草山を借景とした池泉回遊式庭園で、江戸期と明治期という二つの庭を同時に味わえるのも特徴です。

現在、庭園の保存と活用を図るため、建物の修理、園路や樹木の整備を行っています。

事業期間 R7～R8年度
R8年寄附目標額 1,408万円

国指定



奈良時代の當麻寺東塔を借景として心字池を中心とした桃山時代の庭園で、大和三名庭の一つにも数えられています。

現在、庭園の保存と活用を図るため、築地塀の復旧や水路の修理、樹木の剪定を行っています。

事業期間 R7～R8年度
R8年寄附目標額 192万円

国指定

令和9年度以降に行う事業



長岳寺楼門は平安時代末期に建立された現存最古級の楼門として知られています。柿葺屋根の破損が著しく、応急処置として屋根面を鉄板で養生しています。文化財的価値を守りつつ、美しい姿を取り戻すため、屋根葺替等を行う予定です。

事業期間 R9年度(予定)
R8年寄附目標額 750万円

国指定



手向山八幡宮は東大寺の鎮守社で、現在の社殿は大仏殿復興を祈願するために公慶上人により元禄4年(1691)に造営されたものです。軸部の不陸や傾斜がみられ、土壁の破損が著しく、早急に修理が必要な状況です。事業は令和9年度着手予定です。

事業期間 R9～R12年度(予定)
R8年寄附目標額 1,710万円

県指定



談山神社の伽藍配置は神仏習合の特殊な例として知られており、社殿は江戸前期から中期に造営されたものです。屋根の破損が著しく、軒廻りにまで雨漏りが達しており修理が必要な状況です。事業は令和11年度着手を予定しています。

事業期間 R11～R22年度(予定)
R8年寄附目標額 4,500万円

国指定

いただいた寄附の使い道

寄附者が指定する文化財保存活用等事業に対する補助金の財源として活用させていただきます。

また、寄附金の5%は県の事務費等に充当します。

令和8年度寄附目標額を超えて今年度寄附された寄附金については、次年度もしくは他事業に充当させていただく可能性があります。

万が一事業を実施できない事由が生じた場合には、当該寄附の趣旨に沿うような事業に活用させていただきます。

問い合わせ

奈良県 地域創造部 文化財課

〒630-8501 奈良市登大路町30

TEL 0742-27-9864 (直通) FAX 0742-26-5386

Email bunkaz@office.pref.nara.lg.jp

